

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年12月6日(2012.12.6)

【公表番号】特表2012-507561(P2012-507561A)

【公表日】平成24年3月29日(2012.3.29)

【年通号数】公開・登録公報2012-013

【出願番号】特願2011-534804(P2011-534804)

【国際特許分類】

A 01 N	25/00	(2006.01)
A 01 N	39/04	(2006.01)
A 01 N	57/20	(2006.01)
A 01 N	43/40	(2006.01)
A 01 N	37/40	(2006.01)
A 01 P	13/00	(2006.01)
A 01 P	7/04	(2006.01)
A 01 P	3/00	(2006.01)
A 01 N	25/30	(2006.01)
A 01 N	25/04	(2006.01)
A 01 M	7/00	(2006.01)

【F I】

A 01 N	25/00	1 0 1
A 01 N	39/04	
A 01 N	57/20	G
A 01 N	43/40	1 0 1 E
A 01 N	43/40	1 0 1 J
A 01 N	37/40	
A 01 P	13/00	
A 01 P	7/04	
A 01 P	3/00	
A 01 N	25/30	
A 01 N	25/04	1 0 1
A 01 M	7/00	Z

【手続補正書】

【提出日】平成24年10月17日(2012.10.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

農薬の施用中のスプレードリフトを低減する方法であって、0.01%vol/volから5%vol/volの自己乳化性エステルまたはその混合物を、殺虫性スプレー剤に配合することを含む方法。

【請求項2】

農薬が除草剤である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

除草剤が2,4-D、グリホセート、トリクロピル、アミノピラリド、ジカンバ、また

はそれらの混合物である、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

農薬が殺虫剤である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

農薬が殺真菌剤である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記自己乳化性エステルが、(1) C₅~C₄ の親油性骨格、ならびに非イオン性および陰イオン性の界面活性剤官能性の両方を含有する分子のエステル部を有するオレイン酸およびリノール酸の重合によって生成される、三量体酸系の自己乳化性エステル、(2) 脂肪酸およびジカルボン酸無水物によるエトキシ化トリメチロールプロパンのエステル化によって調製されるエステル、(3) 高分子量の二塩基酸、ポリオキシアルキレングリコールおよび一官能性脂肪族アルコールから誘導されるエステル、(4) エトキシ化トリメチロールプロパンを、カルボン酸またはその反応性誘導体と反応させることにより調製される自己乳化するエステル化合物、(5) 植物または陸生動物由来のマレイン酸化トリグリセリド油から誘導されるコハク酸トリグリセリド油、(6) エトキシ化脂肪酸エステル、(7) アルコールを、エチレンオキシドおよびプロピレンオキシドおよび / またはブチレンオキシドと反応させて、得られたアルコキシレートをアルカン酸または芳香族酸でキャッピングすることにより調製されるアルコキシレートエステル、および(8) アルコキシ化トリグリセリドである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

1 重量 % から 90 重量 % の農薬、および 0.05 重量 % から 30 重量 % の自己乳化性エステルを含むプレミックス製剤。

【請求項 8】

20 重量 % から 60 重量 % の農薬、および 1.0 重量 % から 10 重量 % の自己乳化性エステルを含む、請求項 7 に記載のプレミックス製剤。